

# A材を活用した非住宅建築物の木造化・木質化の推進

## ポイント

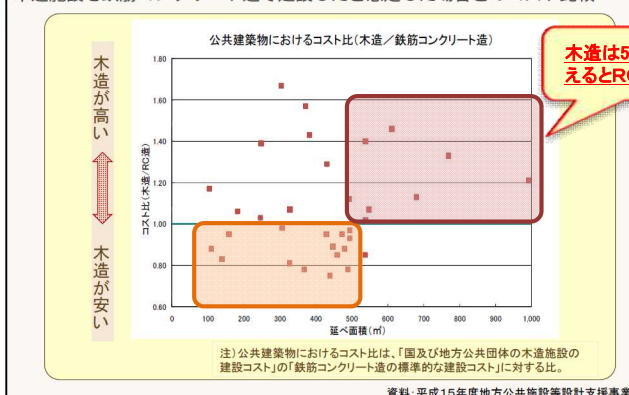
- 木材需要の抜本的な拡大のためには、非住宅建築物の木造化・木質化の推進が重要
- 非住宅木造建築物の需要拡大と併せて、品質及び性能が明確なJAS製材品など供給体制の整備が必要

## 需要

### ---現状---

- 非住宅建築物の木造率は低い、官・民において非住宅建築物の木造化の機運が高まりつつある
- 木造率 **33.1%** (全体:51,157棟 木造:16,938棟)(H29年度)
- 非住宅建築物の設計には構造計算が求められる
- 非住宅木造建築は、RC造と比べコストが割高
- 非住宅木造建築物では、防耐火への対応が必要
- 非住宅建築物には内装に木材があまり使われていない

木造施設を鉄筋コンクリート造で建設したと想定した場合とのコスト比較



## 供給

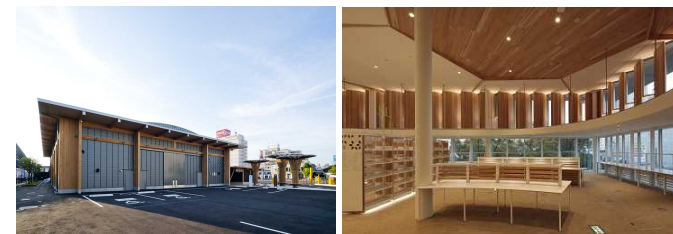
- 全国のJAS機械等級区分の出荷量が少ない
- JAS機械等級区分の製材品の流通量 (H28) 建築用材(7,623千㎡)のうち機械等級区分 (612千㎡) は**約8%**
- JAS機械等級区分認定事業者 H26:64社(全体:5,468社)→ H29:72社(全体:4,814社)
- 建築用材に占める人工乾燥材の出荷割合が低い
- 建築用材(7,623千㎡)のうち人工乾燥材(3,389千㎡)は**約44%**

### ---課題---

- 非住宅木造建築物を設計できる建築士が不足
- 施主への木の良さなどの情報発信が不足
- 品質及び性能が明確で構造計算が可能なJAS製材品の普及が必要不可欠
- 低コストで大空間の設計に対応できる新たな木質建材が必要
- 耐火性の高い新たな木質建材が必要
- デザイン性の優れた新たな内装材が必要

### ---提言---

- 非住宅木造建築に設計ができる建築士の育成するための支援の強化
- 木や木造建築に関する施主への理解醸成に向けた取り組みに対する支援の強化
- 非住宅建築物へのJAS構造材の利用促進に向けた取り組みに対する支援
- 新たな製品及び技術開発への支援
  - ・ A材(一般材)を活用したリーズナブルで施工性の高い構造材
  - ・ リーズナブルな木質耐火部材
  - ・ A材(役物)を活用した内装材 等



- JAS認定などに掛かる費用が高い
- 事例 (認定時) 認定料 700千円 (毎年) 監査料等 500千円 格付検査等 860千円 毎年費用 **1,360千円**
- 乾燥機や強度測定機等の設備費が高い
- 施設整備費(試算) ※建屋等は含まない 乾燥機・強度測定機等 150,000千円

H29 (ｽﾀｰﾌﾞﾙ 正角、ｽﾀｰﾌﾞﾙ 平角)  
出荷量: 9千㎡ 格付検査: 6回

- JAS認定などに掛かる経費負担の軽減を図るよう手数料体系の見直し
- 機械等級区分による構造用材の生産拡大のために中小製材事業者が共同により整備する乾燥機や強度測定機などへの支援

